関東大会予選初戦

４月 19 日（日）、関東大会予選の初戦（２回戦）である日野台戦が行われました。

高島　70－52　日野台

３か月ぶりの公式戦でしたが、立ち上がりから硬さも見られず、リバウンドショットで先制すると、ゴール下を中心に加点するなどスタートダッシュに成功。第 1Q 残り３分には 20-5 と大きくリードを奪います。その後、相手のオンボール・スクリーンからのプレーとアウトサイドのシュートに苦しみ点差を詰められ第 1Q を 21-16 で終えます。

第 2Q に入ると相手のオフェンスに対応できるようになり、徐々に点差が広がり始めます。相手の２回のタイムアウトにも流れを切られることなく、終盤にはベンチメンバーも 3P を決めて 37-26 で前半を終えます。

第 3Q、DF のギアを上げ相手の得点を封じると、リバウンドでも主導権を握り、内外バランスよく得点をあげて、残り２分で 53-29 と大きくリードを広げ、試合の大勢を決めます。

第 4Q、相手のゾーン DF にも落ち着いて対応し着実に加点します。残り４分 66-40 としたところでここまで出番のなかった控えメンバーも出場。最後はベンチメンバー全員出場で勝利を挙げ、３回戦進出を決めました。

苦しかった春休みを越えて手にしたもの

３月の学年考査明けからの活動は決して順風満帆ではなく、苦しい時期が長く続きました。

怪我人、体調不良者が多く出てしまったことで、３月に行われた３つの交歓大会（コアラカップ、DM カップ、フェブラリーカップ）でも競った試合で勝ち切れず、満足のいく成績は残せませんでした。関東大会前最後の練習試合でも、主力を欠く中で厳しい戦いを強いられ、大敗を喫しました。

勝敗だけで言えば厳しい期間を過ごした春休みでしたが、だからこそチームとして大きくステップアップするための経験を積むことが出来たと感じます。

昨年度の秋や冬には出場機会の少なかったプレーヤーにチャンスが回ってきたことで、控えメンバーが経験を積み、選手層が厚くなったことはこの春の大きな成果です。結果として、日野台戦でも前半の早い段階から控えメンバーも出場し、持ち味を発揮する場面が数多くありました。これまでどこかコート上で自信がなさそうにしていた選手たちが、公式戦の舞台で堂々とプレーするようになったことは強く印象に残っています。

関東大会予選では勝ち上がっていけばダブルヘッダーとなる日程のため、上位に進出するためには選手層の厚さが必要不可欠になります。その意味でもこの春、苦しみながら手にしたチームとしての成長に大きな手ごたえを感じています。

この春、練習試合、交歓大会で結果が出ない中でも、下を向くことなく、明るい雰囲気で練習に取り組み続けることが出来ました。試合で負けた翌日の活動などどうしても士気が下がりやすいものですが、この春、そうした雰囲気を全く感じることはありませんでした。それは３年生を中心とした選手たちの精神的なタフさであり、このチーム最大の強みです。

この春、苦しんだからこそ感じられたチームの成長と強みを関東大会予選という大きな舞台での成果につなげられるよう、３回戦以降も一戦必勝でアツく戦っていきます。